



心電図検査①

心電図検査は健康診断などでおこなうことが多く、ほとんどの人が受けたことのある身近な検査です。では、どんな検査なのか皆さん知っていますか？
心電図検査は心臓の動きや状態を知ることが出来ます。今回はこの心電図検査について、また異常な心電図について今回と次回の2回に分けて、詳しく説明していきたいと思ひます。

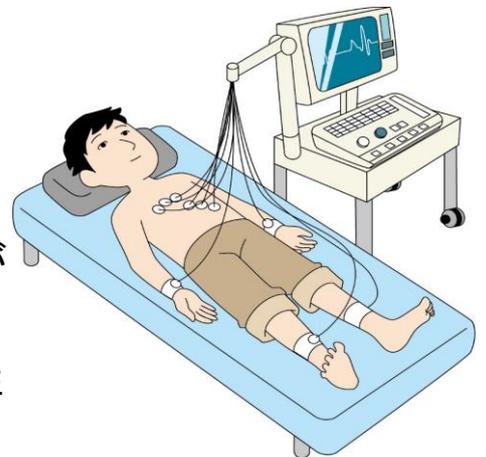
心電図検査とは

心臓の動きを見る検査

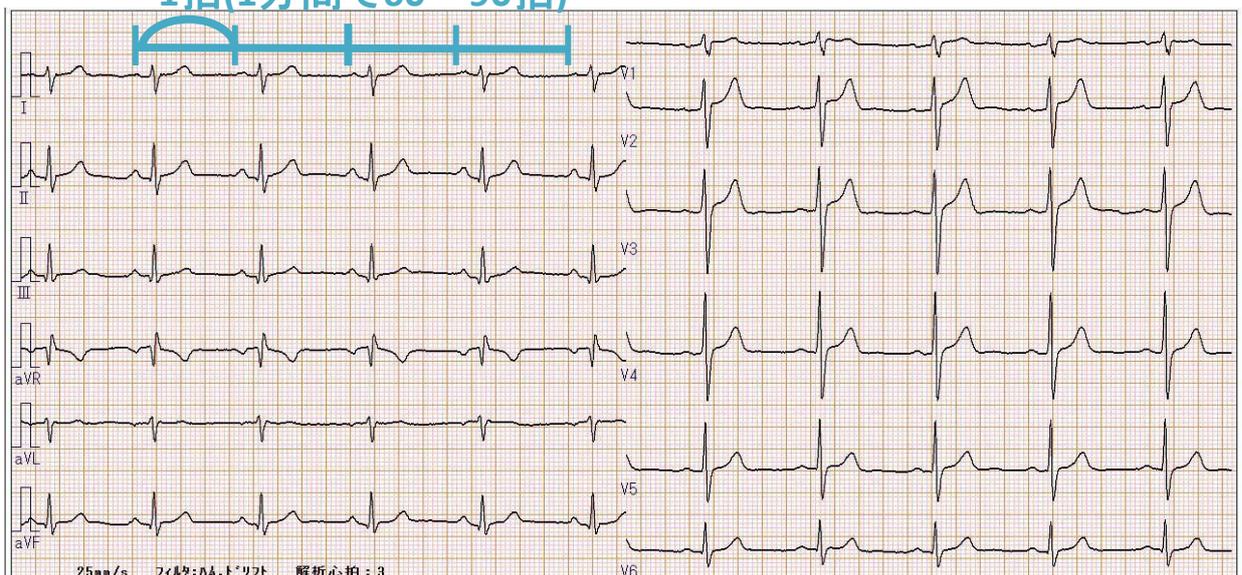
心臓は血液を全身に送るポンプのような役割をしています。このポンプのような動きは心臓が作り出す電気で動いています。心電図は心臓から出た電気信号を下の波形に変えて心臓の動きを見る検査です。

心電図検査の方法は両方の手首と足首、そして胸に電気信号をひろうための電極をつけます。簡単に短時間で検査できるため健康診断などでおこなう身近な検査です。

下の波形は1拍1拍規則正しいリズム波形が出ていて、1分間で60～90拍心臓が動いています。しかしこのリズムが乱れたり、心臓の動きが異常に遅かったり速かったりすると心臓の動きに異常がある可能性があります。また1拍の波形の形に異常があった場合も心臓に異常がある可能性があります。
次にどのような波形が異常かお話しします。



1拍(1分間で60～90拍)



異常な心電図（不整脈編）

・心房細動

心房やその周囲に異常興奮する病変が出現し、心房が1分間に350～600回、不規則かつ小刻みに痙攣する病気が心房細動です。心房細動の患者数は約130万人いると言われており、加齢で罹患する人が多いです。

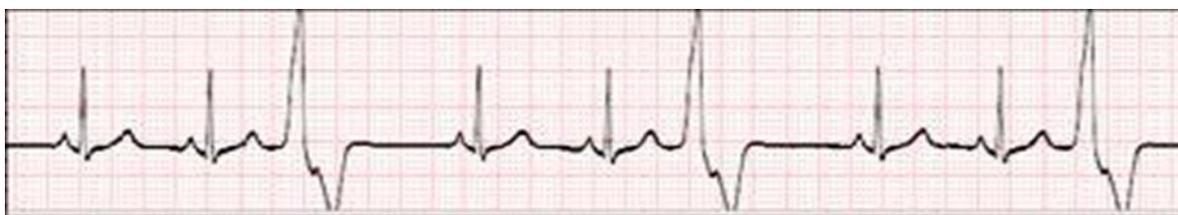
理由は心臓の心筋が劣化し、うまく電気信号が伝わらなくなるためです。心筋の劣化は糖尿病、肥満、脂質異常症などのメタボリックシンドロームで起きることがあり、心房細動を引き起こしやすくなる要因とされています。また虚血性心疾患など心臓疾患でもなる場合もあります。心房細動は心臓が痙攣することで心房内で血液がよどむために血栓ができて脳梗塞を引き起こすことがあります。そのため薬物治療として血液をサラサラにして脳梗塞を予防するための抗凝固薬と、脈拍を整える抗不整脈薬などがあります。



・心室性期外収縮

心室性期外収縮は不整脈のうちの1つで、正常な波形の間に大きな波形が出現しリズムが乱れることが特徴です(矢印)。心臓の心室から発作的に電気信号が発生し、波形のリズムが乱れることで起きます。

この心室性期外収縮は、健康な人でも約50%程度の人に認められるといわれていて喫煙やストレスで出現することもあります。しかし頻度が多かったり、連続性のものや大きな波形の形が様々になると治療が必要になります。また虚血性心疾患や心臓弁膜症などの心臓疾患が原因で起きることがあります。



まとめ

今回は心電図検査の不整脈編についてご紹介しました。不整脈は様々なパターンがあり、時々不整脈が出るような場合例えば年1回の健康診断で心電図検査をしても波形に出てこないことがあります。

もし不整脈がないか確認する場合は、ご自身で脈をとることを習慣にしてみるといいかもしれません。また息苦しさなどの自覚症状がある場合、その時に脈をとることも重要です。もし気になる症状があれば、病院に受診することをお勧めします。



検査について詳しく知りたい方は、医師にご相談ください。